

## 県民の総力で

# ふじのくにを自転車の聖地へ！

スポーツの普及や交流などを通じて、県民幸福度の最大化を目指す静岡県は

「スポーツ王国しずおか」を合言葉に、アスリートの育成やスポーツ人口の増進を図っている。

今回はサイクルスポーツによって、健康増進、国際交流、経済の活性化などを目指す取り組みを紹介する。

### サイクルリスト目線で

2020年、東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技が静岡県で開催される。これを好機ととらえ、本県は「サイクルスポーツの聖地」を目指す取り組みを加速させている。

本県は、総合計画後期アクションプランにおいて、「スポーツは人々に心身の健康をもたらすし、生活に潤いや活力を与えるとともに、国や地域、世代、言葉の壁を越えて、互いを理解する場を提供するもの」と位置づけている。自転車は、ライフスタイルに合った楽しみ方ができる最

適な生涯スポーツだ。また、観光資源に恵まれた本県を国際交流の場として活用できるサイクリングは、地域活性化の原動力にもなり得る。そこで本県は、

2016年に「静岡県サイクルスポーツ協議会」を設立し、東京五輪に向けて県民の自転車への関心を高め、五輪後も国内外から多くのサイクリストが訪れる「サイクルスポーツの聖地」を目指した取り組みを進めている。

同協議会が最初に行ったのは、サイクリング資源の検証とサイクリスト目線による課題の整理だ。県内6地域で実走調査を行い、「サイクリストに対する情報

サイクリングは、地域の文化や歴史に深く接することができる。環境への負荷も少なく、生涯スポーツとしても最適だ。



県内に設置されたバイシクルピット。スタンドのないロードスポーツ車には欠かせない駐輪設備。



発信「宿泊・観光施設での受入態勢」「休憩・修理・緊急時対応スポットの整備」「歩行者と共存するルール・マナーの啓発」「ガイドの育成」「安全走行環境の整備」「鉄道やバスとの連携によるモーダルミックス」などの課題を明らかにした。その上で、自転車を安全・快適に利用でき、誰もが親しめる地域社会の形成を目的に、自転車の応急修理や休憩ができる「バイシクルピット」や自転車の走行位置を示す矢羽根型の路面表示や、自転車走行空間を確保するための道路拡幅などのハード面の整備を進めている。中でも聖地の象徴的な存在となることが期待されるオリンピック自転車競技会場「ペロドローム」を有する伊豆・東部地域では、本年度中に50カ所のバイシクルピットを整備し、訪れるサイクリストをあたたく迎え入れる体制を整える予定だ。

### 鍵は愛好者数の拡大

ソフト面の取り組みも進んでいる。国際交流は、2015年にイタリア国フリウリ・ヴェネチア・ジュリア(FVG)州とスポー



フリウリ・ヴェネチア・ジュリア州との自転車交流。両県州では相互に選手を送り込んでいる。

ツ交流協定を締結し、両県州で行われる国際自転車競技大会へ隔年相互に選手を送りあうことで富士山とゾンコラン山を象徴とする自転車交流事業を推進している。また、「ライド&ライド狩野川」「浜名湖サイクル・ツーリング」「ゆるゆる遠州ガイドライド」など、参加者のレベルやライフスタイルに応じたサイクリイベントが県内各地で行われ、イベントを通じた交流も生まれている。こうした取り組みを通じて、聖地化の鍵とされる一般県民の意識醸成を促進し、愛好者や競技者人口の拡大を図るのが本県の狙いだ。本県には豊かな自然が作り出した地形が随所にある。また、観光資源や農林水産物が豊富な上に、それらを生かす宿泊施設やおもてなし文化も多彩だ。そうした多様な魅力を国内外にアピールする上で、自転車は絶対のスポーツと言える。県民一人ひとりが自転車に興味と理解を示し、オール静岡の陣容で自転車に親しむ文化が広まっていけば、世界に冠たる「サイクルスポーツの聖地」も視界に入ってくるだろう。

※モーダルミックス:様々な交通手段の特性を組み合わせ、最適な輸送体系を作ること。

## Pick up Athlete

もちつきみわこ  
望月美和子さん

自転車ロードレース選手(クライマー)

ロードバイクは  
風になる感覚。  
普段の風景も  
新鮮に見えます。



自転車競技を始めて3年。今やヒルクライムレース(登坂)で全国屈指の選手となった望月美和子さんの半生は、自転車のようなスピード感にあふれている。

望月さんがロードバイクと出会ったのは20歳の時。街乗り用の自転車を買換える際、勤務先の先輩に相談したのが発端だ。購入の決め手は「ドロップハンドルがかっこ良かったから」と望月さんは笑うが、実際に走り出してみると、その爽快

感に心を奪われた。以来、往復40kmの道のりを自転車で通勤し、休日は自転車店主宰のチーム練習に参加。勤務先の「興津螺旋株式会社」が自転車部品も扱う地元のねじメーカーだった偶然も重なり、1年後には国内レースで優勝を争える選手に成長した。

自転車の魅力を望月さんはこう語る。「体への負担が少なく、誰でも気軽に始められます。仲間と走る楽しさも格別。ダイエットにもなります。ただ、道路を安

心して走るにはクルマを運転する人の意識改革も必要。その意味でも多くの人に自転車に乗ってほしいですね。

現在、勤務先のバックアップを得て活躍する望月さん。「私は幸運に恵まれましたが、企業や社会が一体となって自転車文化を広げていく姿勢も大切です」。若きホープは自転車の普及活動を牽引しながら、五輪という高みに向かって坂を駆け上がる。



### Profile

1993年静岡市生まれ。自転車競技ロードレース選手。戦績は第30回ツール・ド・ハク岳女子Aの部優勝、第13回富士山国際ヒルクライム女子部門優勝、第11回キング・オブ・ヒルクライム富士山女子の部優勝、FUJI-ZONCO LANヒルクライムin小山町2016女子の部優勝など。競技経験が深いため、その可能性は未知数とも言われ、将来五輪での活躍も期待されている。